

歴民だより

歴史民俗資料館

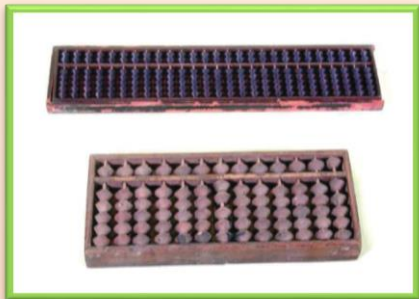
平成 29 年度 1 月号 No.51

息づく庶民の知恵

昔の民具

(安八町郷土資料庫 蔵)

そろばん 算盤



室町時代～

かげんじょうじょ

軸に通した珠を移動して加減乗除する計算用具。室町時代に中国から伝わったといわれ、江戸時代に広く使われるようになった。初期のそろばん りょうじょうにしゅ りょうかごしゅ 算盤は梁上二珠、梁下五珠であったが、のち りょうじょういっしゅ りょうじょう に梁上一珠のものが普及し、今日では梁上 いっしゅ りょうかししゅ 一珠、梁下四珠のものが一般的である。

火消しつぼ

かつて日本の家庭のエネルギー源のほとんどは木に頼っていました。木はそのまま乾燥し、いろりやかまどで燃やしたり、木炭にしてコンロや火鉢で使用します。しかし、不要になったからといって、一度に消すのは水をかける以外ありません。水をかければ燃料として使うのに再度乾燥しなくてはならず不便です。そこで、その不便を解消するため登場したのが火消しつぼです。



古代～

ハートピア安八
- 歴史民俗資料館 -

住所：岐阜県安八郡安八町氷取30
お問合せ：0584-63-1515